

授業科目名： 家庭経営学演習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八幡彩子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、(1) 複式家計簿記の演習 (2) 「家計調査年報」等を活用した家計の構造分析 (3) 生活時間研究とその応用 (4) 人生80年時代の生活設計 の4テーマを扱う。 授業の到達目標は以下の2点である。 (1) 3年次までに学習した家庭経営学の理論的知見を踏まえ、よりよい家庭生活実現のための応用・実践方法を習得する。 (2) 中学校ならびに高等学校家庭科（家庭経営学領域）における実践的・体験的な学習指導力・教材指導力を身に付ける。			
授業の概要 (1) 複式家計簿記の演習では、キャッシュレス時代に対応した複式家計簿記帳を通して、フローとストックの把握方法を習得する。 (2) 家計調査年報等を活用した家計の構造分析では、受講者に「家計調査年報」等に基づくデータを配布し、消費構造や家計構造の分析手法を学ぶ。 (3) 生活時間研究とその応用では、1日の生活時間調査を実施し、それをもとにエネルギー消費量を算出し、摂取エネルギーとのバランスのとり方を考えるとともに、家事労働研究への応用や疲労回復の方法について演習する。 (4) 人生80年時代の生活設計では、高校生が家庭科を学ぶ視点に立って、ライフコースの選択、ライフコースのよりよい実現を可能にする長期の経済計画について立案・シミュレーションを行う。			
授業計画 第1回：家庭経営学演習を学ぶにあたって—家庭経済学概説 本授業への導入編として、授業の進め方等についてガイダンスを行うとともに、家計と家庭経済との違いなど、家庭経済学の基本用語や概念について説明する。 第2回：複式家計簿記の演習 (1) 複式家計簿記の成り立ち 第3回：複式家計簿記の演習 (2) 複式家計簿記の例題演習（期首の準備を中心に） 第4回：複式家計簿記の演習 (3) 複式家計簿記の例題演習（補助帳簿のメ切方を中心に） 第5回：複式家計簿記の演習 (4) 複式家計簿記の例題演習（正帳簿への集約と家計診断への応用） 第6回：家計の構造分析 (1) 「家計調査年報」による戦後の家計構造の経時的分析			

<p>第7回：家計の構造分析(2) 「全国家計構造調査」による家計構造の世帯類型別分析</p> <p>第8回：家計の構造分析(3) 「全国家計構造調査」による家計構造のライフステージ別分析</p> <p>第9回：生活時間研究とその応用(1) わが国における生活時間研究の歩みと分析手法の概説</p> <p>第10回：生活時間研究とその応用(2) 1日の生活時間調査の実施・分析とエネルギー消費量の算出</p> <p>第11回：生活時間研究とその応用(3) 摂取/消費エネルギーのバランスと家事労働研究への応用</p> <p>第12回：人生80年時代の生活設計(1) 高校生向け生活設計ワークシートによる生活設計方法の習得</p> <p>第13回：人生80年時代の生活設計(2) 長期の生活設計4大項目に関する貯蓄計画シミュレーション</p> <p>第14回：人生80年時代の生活設計(3) 住宅ローンの返済方法に関するシミュレーション</p> <p>第15回：まとめ 4つの授業テーマをもとに、家庭科における具体的指導法を考える。</p> <p>定期試験は行わない。</p>
<p>テキスト</p> <p>テキストは使用せず、資料・ワークシートを配付する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重川純子『新訂 生活経済学』放送大学教育振興会(2016) ・御船美智子『家庭生活の経済』放送大学教育振興会(1996) ・大森和子『改訂新版家庭管理学』朝倉書店(1981) ・大森和子・好本照子・阿部和子・伊藤セツ・天野寛子(共著)『家事労働』光生館(1981) ・石川実(編)『高校家庭科における家族・保育・福祉・経済―「家庭総合」・「家庭基礎」指導の基礎知識―』家政教育社(2002) ・臼井和恵(編著)『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院(2001) ・内藤道子・中間美砂子・金子佳代子・高木直・田中勝(共著)『生活を創るライフスキル』建帛社(2002)
<p>学生に対する評価</p> <p>4つのレポート(各25%)により評価を行う。</p>

授業科目名： 家政学原論 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八幡彩子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>4年間の家政教育に関する専門領域の入門編として、家政学の学問論の理解を通して家政学の全体像をつかみ、総合的に生活を捉える家政学的視点を育成する。</p> <p>本授業の到達目標は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 4年間の家政教育に関する専門領域の入門として、家政学の学問論の理解を通じて家政学の全体像が把握できる。 2) 総合的に家庭生活を捉える家政学的視点を身につける。 3) 人間生活における家庭生活の意義について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、授業への導入、日本とアメリカを中心とする家政学の歴史（比較家政学）、家政学論、家庭生活論、これからの家政学（家政学の将来）などの内容をもとに、「家政学とは何か」、家庭生活が人間生活において果たす役割について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：家政学とは何か 本授業への導入編として、授業の進め方等についてガイダンスを行う。</p> <p>第2回：家政学原論の由来 わが国における学問としての家政学の誕生と家政学原論の由来について概説する。</p> <p>第3回：家政学成立の略史（1）日本（江戸時代） 家政学の歴史的考察の意義と江戸時代を中心に日本における家政学成立の略史について概説する。</p> <p>第4回：家政学成立の略史（2）日本（明治期以降） 明治期以降の日本における科学としての家政学の成立過程について概説する。</p> <p>第5回：家政学成立の略史（3）アメリカ 世界で最も早く科学として高等教育機関に位置づけられたアメリカにおける家政学成立の略史について社会的・文化的背景とともに概説する。</p> <p>第6回：世界の家政学 国際家政学会の取組を中心に、世界の家政学の特徴ある動向を概説する。</p> <p>第7回：家政学の名称および定義 家政学の名称をめぐる近年の動きと日本における家政学の定義を概説する。</p>			

第8回：家政学の対象および目的

日本における家政学の定義をふまえて、家政学の対象認識の方法と研究方法について概説する。

第9回：家政学の性格・方法・体系および独自性

家政学が独立した学問であるための学問としての要件について考える。

第10回：人間の家庭生活のもつ意味（1）

人間の家庭生活の意義について、生命維持機構（個体維持）の視点から考える。

第11回：人間の家庭生活のもつ意味（2）

人間の家庭生活の意義について、生命維持機構（種族維持）の視点から考える。

第12回：現代における家庭の機能

現代における家庭の機能ならびにこれからの家庭生活の展望について考える。

第13回：人間の生涯発達と家政学

家政学は、人間の生涯発達にどのように寄与するのかについて考える。

第14回：家政学の社会的展開

専門（職業）としての家政学の社会的展開の可能性について考える。

第15回：これからの家政学

時代の変化とともに、家庭生活が変化する中で、これからの家政学はどのように「よりよい生活の実現」に貢献するのかについて考える。

定期試験

テキスト

（一社）日本家政学会家政学原論部会（編）『やさしい家政学原論』建帛社(2018)

参考書・参考資料等

亀高京子（監修）『若手研究者が読む「家政学原論」2006』家政教育社（2006）

ヴァージニア・V・ヴィンセンティ（著），倉元綾子（訳）『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社（2005）

松岡明子（編著）『家政学の未来—生活・消費・環境のニュー・パラダイム—』有斐閣(2004)

八幡（谷口）彩子『明治初期における翻訳家政書の研究』同文書院（2001）

亀高京子・仙波千代『家政学原論』光生館（1981）

（社）日本家政学会家政学原論部会（監修）『家政学 未来への挑戦』建帛社（2001）

S. ステイジ，V.B. ヴィンセンティ（編著），倉元綾子（監訳）『家政学再考』近代文芸社(2001)

（社）日本家政学会（編）『新版 家政学事典』朝倉書店（2004）

学生に対する評価

授業時の発言・提出物(20%)，事後学習による小レポート(30%)および試験(50%)により判定する。

授業科目名： 家族関係学 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八幡 彩子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>本授業の到達目標は以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族関係や家族法に関する基礎理論を習得すること。 2) 現代における家族とそれを取りまく社会の変化の動向について理解すること。 3) 授業で学んだ基礎理論を用いて、身近な家族のライフコースに関する聞き取り調査を行い、分析・考察ができること。 			
授業の概要 <p>家族は、社会の最も基礎的な集団であり、私たちに最も身近な存在である。戦後、家族に生じた変化は、社会にさまざまな影響を及ぼしてきた。この授業では、家族関係や家族法に関する基礎的知識を習得するとともに、家族の生涯発達について学際的に概観し、社会の変化とこれからの家族のあり方について展望する。さらに、習得した基礎理論を活用して、家族のライフコースに関する聞き取り調査を実施し、分析・考察を行う。</p>			
授業計画 第1回：家族関係学を学ぶにあたって 第2回：家族に関する基礎的概念と諸相 第3回：配偶者の選択と結婚 第4回：家族問題への法的接近 第5回：法的にみた結婚 第6回：夫婦関係の諸相 第7回：離婚制度 第8回：妊娠・出産をめぐって 第9回：子どもの発達と親子関係 第10回：青年期の自立と親子関係 第11回：法的にみた親と子 第12回：親の介護と介護保険制度 第13回：扶養と相続			

第14回：これからの家族 ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

第15回：まとめ 中学校及び高等学校家庭科における家族関係の授業展開を考える

定期試験は実施しない。

テキスト

長津美代子・小澤千穂子（編著）『改訂 新しい家族関係学』建帛社(2018)

参考書・参考資料等

- ・岡堂哲雄(編)『家族心理学入門』（補訂版）培風館(1999)
- ・利谷信義『家族の法（第2版）』有斐閣(2005)
- ・槇石多希子ほか(著)『変化する社会と家族』建帛社(1998)
- ・望月嵩『家族社会学入門』培風館(1996)
- ・湯沢雍彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』日本放送出版協会(2008)
- ・湯沢雍彦『データで読む平成期の家族問題』朝日新聞出版(2014)

学生に対する評価

まとめのレポート（70%），毎回の授業後に提出する事後学習レポート（30%）

授業科目名： 被服学Ⅰ 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小松 美和子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①衣生活の基礎知識を理解し、知識を生活に生かすことができる。②基本的被服実習のための技術を修得する。③安全性、効率性、創造性に配慮した製作実習ができる。			
授業の概要 被服学の基礎を解説するとともに、被服実習を行う。衣生活の基礎知識を理解するとともに実習を通して基礎技能を習得する。			
授業計画 第1回：衣服の起源・役割 第2回：衣服の歴史－世界と日本の服飾文化 第3回：被服材料1－衣服の構成要素（繊維、糸、布） 第4回：被服材料2－繊維の種類と性能（天然繊維） 第5回：被服材料3－繊維の種類と性能（化学繊維） 第6回：被服管理1－組成表示、品質表示、サイズ表示） 第7回：被服管理2－洗濯方法と洗剤の役割 第8回：被服管理3－手入れと保管 第9回：衣服と健康1－安全な衣服 第10回：衣服と健康2－環境に配慮した衣生活 第11回：被服製作実習基礎1－手縫いの作品の製図と裁断 第12回：被服製作実習基礎2－手縫いの作品の製作 第13回：被服製作実習基礎3－ミシンの作品の製図と裁断・ミシンの使い方 第14回：被服製作実習基礎4－ミシンの作品の製作 第15回：まとめ・これからの衣生活を考える 定期試験			
テキスト ビジュアル衣生活論（岡田宣子編著、建帛社出版）			
参考書・参考資料等 授業時に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験（50％）、作品課題（30％）、レポート（20％）			

授業科目名： 被服学Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小松 美和子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①衣生活の基礎知識を理解し、家庭科の教員として必要な知識を獲得し説明することができるようになる。②被服学を科学的かつ多面的な視点からみることができるようになる。			
授業の概要 被服学の基礎について科学的根拠を元に解説し、多面的な角度から衣生活の知識や技能を理解するとともに、実習を通して技能を習得する。			
授業計画 第1回：衣服と色1－色とは何か（生活の中の色） 第2回：衣服と色2－色の視覚的効果・錯視（色の見え方） 第3回：衣服と色3－カラーユニバーサルデザイン（視認性の高い色と低い色） 第4回：衣服と色4－着装と色の配色 第5回：衣服と健康1－衣服と体温調節 第6回：衣服と健康2－衣服の着心地 第7回：衣服設計1－体型と衣服のサイズ 第8回：衣服設計2－採寸と型紙 第9回：衣服設計3－裁断と縫製技術 第10回：衣服設計4－ユニバーサルデザイン 第11回：環境に配慮した作品制作（1）企画デザイン 第12回：環境に配慮した作品制作（2）製作 第13回：日本の伝統的衣装1（日本の着物文化） 第14回：日本の伝統的衣装2（日本の染織文化） 第15回：まとめ・これからの衣生活を提案する 定期試験は実施しない			
テキスト ビジュアル衣生活論（岡田宣子編著、建帛社出版）			
参考書・参考資料等 授業時に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 課題レポート（60%）、作品（40%）			

授業科目名： 被服学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小松 美和子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中・高等学校家庭科の被服学の内容に関する専門的知識・理解を深める。被服学の実験や実習を実施することにより、論理的・科学的な思考を身につけることができる。			
授業の概要 布・繊維の特性に関する実験実習を行う。グループ別に実験内容を組み立て、実験を行い結果をまとめる。また、実験結果を発表し考察を通して専門的知識の理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／実験の目的について 第2回：繊維の種類と区別・燃焼実験（1）実験計画 第3回：繊維の種類と区別・燃焼実験（2）実験準備と実施 第4回：繊維の種類と区別・燃焼実験（3）実験実施と記録・結果のまとめ 第5回：繊維の種類と区別・燃焼実験（4）プレゼンテーションと考察 第6回：布の保温性実験（1）実験計画 第7回：布の保温性実験（2）実験準備と実施 第8回：布の保温性実験（3）実験実施と記録・結果のまとめ 第9回：布の保温性実験（4）プレゼンテーションと考察 第10回：洗濯実験（1）実験計画 第11回：洗濯実験（2）実験準備 第12回：洗濯実験（3）実験実施（汚れによる違い）と記録 第13回：洗濯実験（4）実験実施（洗剤による違い）と記録 第14回：洗濯実験（5）実験の記録・結果のまとめ 第15回：洗濯実験（6）プレゼンテーションと考察 定期試験なし			
テキスト 授業時に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 授業時に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 実験レポート（40%）、まとめレポート（30%）、プレゼンテーション（30%）			

授業科目名： 被服学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名 小松 美和子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中・高等学校家庭科の被服学の内容に関する専門的知識・理解を深める。また、被服学に関する報告を読み解くことで、科学的根拠を学び、論理的・科学的な思考力を養う。			
授業の概要 被服の構造に関する内容と技術について講義を行う。また、衣服に関する論文を読み解き、議論する。被服学に関する課題を論理的・科学的に捉え、今後の衣生活に活かす力を身につけることができる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／被服とは何か？ 第2回：被服の構造と着用（1）被服の種類 第3回：被服の構造と着用（2）被服の型紙 第4回：被服の構造と着用（3）被服のサイズと体型 第5回：被服の構造と着用（4）現代の課題 第6回：被服の構造と着用（5）課題の調査・まとめ 第7回：被服の構造と着用（6）発表・議論 第8回：被服に関する論文を読む（1）快適性 第9回：被服に関する論文を読む（2）機能性・安全性 第10回：被服に関する論文を読む（3）環境 第11回：被服に関する論文を読む（4）衣服とジェンダー 第12回：被服に関する論文を読む（5）消費者行動 第13回：被服に関する論文を読む（6）論文をまとめる 第14回：被服に関する論文を読む（7）発表・議論 第15回：まとめ／これからの衣生活について考える 定期試験はなし			
テキスト 授業時に適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 日本家政学会誌 日本衣服学会誌 日本繊維製品消費学会誌 日本衣服学会誌 日本生理人類学会誌			

学生に対する評価 課題レポート (60%) プレゼンテーション (40%)

授業科目名： 被服実習 【シラバス共通科目（熊 大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠塚 致子／小松 美和子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 被服実習の基礎知識と基礎技術の習得を目指す。			
授業の概要 被服製作の基礎となる構成学と実習を行う。			
授業計画 第1回：身体の形と衣服について 第2回：採寸と製図 第3回：ミシンの使い方・安全指導／布の特性について 第4回：布の裁断 第5回：シャツの製作①しるしつけとしつけ 第6回：シャツの製作②肩とヨーク 第7回：シャツの製作③前身ごろと後ろ身ごろ 第8回：シャツの製作④前立て 第9回：シャツの製作⑤脇と裾 第10回：シャツの製作⑥袖つけ 第11回：シャツの製作⑦袖口 第12回：シャツの製作⑧えり 第13回：シャツの製作⑨ボタンホールとボタン付け 第14回：アイロンの使い方とシャツの仕上げ 第15回：まとめ 定期試験はなし			
テキスト 授業時に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 授業時に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 作品（80%）、レポート（20%）			

授業科目名： 食物学 I 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 萱島 知子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 食物学（栄養学、食品学）に関する基礎知識を習得できる。健康を維持するための食生活について考え、意見を述べることができる。			
授業の概要 食物学の栄養学と食品学について基礎的内容を解説する。健康を維持するための食生活について考え、意見交換する活動を取り入れる。			
授業計画 第1回：はじめに（食事の役割） 第2回：栄養学（1）炭水化物 第3回：栄養学（2）たんぱく質 第4回：栄養学（3）脂質 第5回：栄養学（4）ビタミン 第6回：栄養学（5）ミネラル 第7回：栄養学（6）非栄養素 第8回：食品学（1）植物性食品 第9回：食品学（2）動物性食品 第10回：食品学（3）加工食品 第11回：食品学（4）食品衛生 第12回：食事設計（1）ライフステージ別の食事 第13回：食事設計（2）栄養評価 第14回：食事設計（3）改善 第15回：まとめ（食生活と健康を考える） 定期試験			
テキスト 大学で学ぶ食生活と健康のきほん（吉澤みな子他著、化学同人）			
参考書・参考資料等 わかりやすい栄養学（吉田勉編、三共出版）			

学生に対する評価

課題（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 食物学Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠塚 致子／萱島 知子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 食物学（調理学）に関する基礎知識を習得し、基礎技能への理解を深めることができる。現代の食生活の課題について考え、これからのあり方について意見を述べるができる。			
授業の概要 食物学の調理科学について基礎的内容を解説する。現代の食生活の課題について考え、意見交換する活動を取り入れる。			
授業計画 第1回：はじめに（調理の目的） 第2回：調理操作 第3回：植物性食品（1）穀類・芋類 第4回：植物性食品（2）野菜・果物類 第5回：植物性食品（3）豆類・キノコ類 第6回：動物性食品（1）肉類・魚類 第7回：動物性食品（2）卵類・乳類 第8回：成分抽出素材 第9回：おいしさの評価 第10回：食文化（1）和食の特徴 第11回：食文化（2）地域の食文化 第12回：食生活の課題（1）課題設定 第13回：食生活の課題（2）調査 第14回：食生活の課題（3）発表 第15回：まとめ（これからの食生活のあり方） 定期試験			
テキスト 大学で学ぶ食生活と健康のきほん（吉澤みな子他著、化学同人）			
参考書・参考資料等 調理学の基本（中嶋加代子編、同文書院）			

学生に対する評価

課題（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 食物学実験・実習Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 篠塚 致子／萱島 知子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 食物学の知識を活用し、基本的な調理操作について技能を習得できる。調理の目的について理解し、実践できる。			
授業の概要 食物学の調理実習の内容について、基礎知識を解説し、基本的な調理操作に関する実習・実験を行う。調理の目的について考え、理解を深める活動を取り入れる。			
授業計画 第1回：はじめに（調理の目的、調理実習の留意点） 第2回：安全で衛生的な調理 第3回：実習（1）基礎技能 第4回：実習（2）非加熱調理操作 第5回：実習（3）湿式加熱 第6回：実習（4）乾式加熱 第7回：実験（調理操作） 第8回：課題調理、片づけ、まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 流れと要点がわかる 調理学実習 豊富な献立と説明（香西みどり他編集、光生館） 食品成分表（香川明夫監、女子栄養大学出版）			
学生に対する評価 レポート課題（80%）、実技課題（20%）			

授業科目名： 食物学実験・実習Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 篠塚 致子／萱島 知子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 食物学の知識を活用し、基本的な献立の調理について技能を習得できる。幅広い視点から献立作成の要件を理解できる。調理実習の指導上の留意点について理解し、実践できる。			
授業の概要 食物学の調理実習の内容について、基本的な献立についての実習・実験を行う。地域の食材や郷土料理を取り入れた献立作成について解説する。調理実習の指導上の留意点について考え、理解を深める活動を取り入れる。			
授業計画 第1回：はじめに（献立作成、調理実習指導上の留意点） 第2回：実習（1）卵を用いた献立 第3回：実習（2）食肉類を用いた献立 第4回：実習（3）魚介類を用いた献立 第5回：実習（4）郷土料理 第6回：実習（5）行事食 第7回：実験（基本食材） 第8回：課題調理、片づけ、まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 流れと要点がわかる 調理学実習 豊富な献立と説明（香西みどり他編集、光生館） 食品成分表（香川明夫監、女子栄養大学出版）			
学生に対する評価 レポート課題（80％）、実技課題（20％）			

授業科目名： 食物学実験・実習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 萱島 知子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 食物学の実験・実習をとおして、調理操作の原理や食品の特性を理解できる。指定条件での献立作成ができる。実習・実験を正確に実施し、得られた結果について考察し、議論できる。			
授業の概要 食物学の講義や実習で学んだ内容を検証し、理解を深める実験・実習を行う。指定条件での献立作成の実習を行う。得られた結果について根拠資料を基に評価し、議論する活動を取り入れる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、食物学実験の目的 第2回：実習（1）ジャム 第3回：実習（2）豆腐 第4回：実習（3）膨化調理 第5回：実習（4）グルテン形成 第6回：実習（5）魚料理 第7回：実習（6）弁当調理 献立作成 第8回：実習（7）弁当調理 実践・評価 第9回：実験（1）膨化調理 第10回：実験（2）栄養素の定量 第11回：実験（3）非栄養素の定量 第12回：実験（4）遺伝子 第13回：実験（5）食品衛生 手洗い実験 第14回：実験（6）食品衛生 食中毒 第15回：課題発表、片づけ 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 調理科学実験（長尾慶子他編、建帛社）			

流れと要点がわかる 調理学実習 豊富な献立と説明 (香西みどり他編集、光生館)
食品成分表 (香川明夫監、女子栄養大学出版)

学生に対する評価

レポート課題(60%)、実技課題(30%)、発表(10%)

授業科目名： 食物学演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 萱島 知子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 家庭科の食物学の内容に関する専門的知識・理解を深めることができる。さらに、家庭科教員に必要な論理的・科学的な思考力を養う。			
授業の概要 食物学に関するテキストと論文を読み、解説し、意見交換をすることで、食物学の知識と理解を深める。食物学に関する報告の科学的根拠を理解し、望ましい食生活のあり方について考え、提案する。			
授業計画 第1回：はじめに：食物学の基礎 第2回：テキスト輪読（1）望ましい食習慣とは 第3回：テキスト輪読（2）脂質 第4回：テキスト輪読（3）食塩 第5回：テキスト輪読（4）肥満 第6回：テキスト輪読（5）飲酒 第7回：テキスト輪読（6）食事管理 第8回：テキスト輪読（7）まとめ：望ましい食習慣のための指標 第9回：論文紹介（1）食品の機能性評価 第10回：論文紹介（2）調理 第11回：論文紹介（3）栄養 第12回：論文紹介（4）食品 第13回：論文紹介（5）食習慣 第14回：論文紹介（6）食事管理 第15回：まとめ：望ましい食習慣のための提案 定期試験なし			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 佐々木敏のデータ栄養学のすすめ（佐々木敏、女子栄養学出版）			

佐々木敏の栄養データはこう読む！（佐々木敏、女子栄養出版）

行動栄養学とはなにか？（佐々木敏、女子栄養出版）

学生に対する評価

発表（50%）、課題（50%）

授業科目名： 住居学Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中迫由実／澤島智明
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭)		
施行規則に定める 科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校、高等学校家庭科住居分野で扱う内容を取り上げ、家庭科教員として必要な住居分野の知識を習得し、自身の生活の中での実践力を身に付けることを目的とする。			
授業の概要 中学校、高等学校家庭科住居分野で扱われている専門的知識について学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：住まいの機能 第3回：気候風土と住まい 第4回：世界の住まい 第5回：住まいの歴史（近世まで） 第6回：住まいの歴史（近現代） 第7回：住まいの室内環境（光・音） 第8回：住まいの室内環境（熱・空気）（1）理論 第9回：住まいの室内環境（熱・空気）（2）実践 第10回：住宅の性能 第11回：ライフステージと住まい 第12回：住まいの管理 第13回：地域・環境と住まい 第14回：住まいの計画 第15回：授業の総括 定期試験			
テキスト 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 私たちの住居学 第2版（中根芳一編著、オーム社）			

学生に対する評価

平常点：40 p（平素の学習状況、発表、授業毎のレポートなどを総合して評価する）

定期試験：60 p

授業科目名： 住居学Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中迫由実／澤島智明 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標 (1) わが国の住まいや住まい方に関する諸問題について基礎的な説明ができる。 (2) わが国の住まいや住まい方に関する諸問題について、その改善策を自分なりに考察できる。			
授業の概要 講義と見学を通じて、わが国の住まいや住まい方をとりまく諸問題に関する基礎知識を習得させ、 これからの住生活のあり方を考える力を身に付けさせる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：住様式に関する諸問題 第3回：住まいの賃貸に関する諸問題 第4回：住まいの確保に関する諸問題 第5回：住まいの室内環境に関する諸問題（光・音） 第6回：住まいの室内環境に関する諸問題（熱・空気） 第7回：伝統的民家の見学 第8回：住まいとエネルギーに関する諸問題 第9回：現代住宅の見学 第10回：住まいの安全に関する諸問題（家庭内事故） 第11回：住まいの安全に関する諸問題（地震災害） 第12回：住まいの安全に関する諸問題（豪雨災害） 第13回：子どもと住まいに関する諸問題 第14回：高齢者と住まいに関する諸問題 第15回：授業の総括 定期試験			
テキスト 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

私たちの住居学 第2版 (中根芳一編著、オーム社)

学生に対する評価

授業毎のレポート (30%)、見学レポート (30%)、最終レポート (40%)

授業科目名：住居学Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中迫由実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標 「まちづくり」について基本的な考え方や関係する知識を学ぶと共に、地域を歩き、安全で安心できる地域環境や今後の自分と居住地域との関わりについて考察する。			
授業の概要 まちづくりに関する先行事例を学び、実践的なまちづくりの知識を習得するとともに、身近な地域の諸問題について考察する能力を身に付ける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：住民とまちづくり1：まちづくりの基本的な考え方やまちづくりの担い手について講義をする。 第3回：住民とまちづくり2：参加・協働型まちづくりの方法と仕組みについて講義をする。 第4回：住民とまちづくり3：地域の価値を高めるためのコミュニティマネジメントについて講義する。 第5回：都市施設の計画 第6回：身近な公園の現状1：都市公園法の改正や公園の管理について講義する。 第7回：身近な公園の現状2：各自で近隣の公園の利用実態を調査し、結果のプレゼンテーションを行う。 第8回：身近な公園の現状3：公園が抱えている課題や先行事例について解説する。 第9回：安全で安心できる住環境について1：犯罪からの安全について諸理論に関する講義を行う。 第10回：安全で安心できる住環境について2：大学周辺を歩き、犯罪の発生という観点で危険な箇所を調査する。 第11回：安全で安心できる住環境について3：前回の講義で調査した結果をまとめる。 第12回：安全で安心できる住環境について4：調査結果の発表および課題解決にむけてディスカッションをする。 第13回：安全で安心できる住環境について5：防災の視点でフィールドワークをする場合のポイントについて講義をする。 第14回：安全で安心できる住環境について6：交通安全の視点でフィールドワークをする場合のポイントについて講義をする。			

第15回：授業の総括

テキスト

「私たちの住居学 第2版」編著中根芳一、オーム社

参考書・参考資料等

「入門都市計画—都市の機能とまちづくりの考え方— 第2版」谷口守，森北出版

「生活の視点でとく都市計画」葉袋奈美子，室田昌子，加藤仁美著，彰国社

学生に対する評価

授業中の積極的な発言、コメントシート20%、レポート80%により総合的に評価

授業科目名： 住居計画学 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中迫由実／澤島智明
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校、高等学校家庭科教員として住居分野に必要な知識を習得する。家事動線や時間とともに変化する住まいに対する要求を理解し、平面図を作成することを通して、ライフスタイルにあった住まいの特徴を理解し、計画する際の実践力を身につける。			
授業の概要 住宅を計画するにあたり必要な、構造、設備、間取り、空間の使い方、資金計画などの知識を習得し、住まいの提案を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：各室設計の要点 第3回：製図の基礎1（製図記号と平面図） 第4回：製図の基礎2（製図のルール） 第5回：動作と寸法1（理論） 第6回：動作と寸法2（実践） 第7回：最新の住まい 第8回：住まいと費用 第9回：住まいの提案1（住要求の整理） 第10回：住まいの提案2（住空間の提案） 第11回：住まいの提案3（平面計画） 第12回：住まいの提案4（インテリア計画） 第13回：住まいの提案5（プレゼンボード作成） 第14回：住まいの提案6（プレゼンテーション） 第15回：授業の総括 定期試験なし			
テキスト 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

「住まい方から住空間をデザインする」新訂第二版（彰国社）著者：林知子

「私たちの住居学 第2版」編著：中根芳一、オーム社

「図解 住まいの寸法・計画事典 第二版」彰国社

「図解 住まいの寸法」学芸出版

学生に対する評価

授業中の積極的な発言、小レポート20%、課題（住まいの提案）80%により総合的に評価

授業科目名： 住居学演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤島 智明 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・住居学		
授業のテーマ及び到達目標 (1)生活空間の物理的環境（音・熱・光・空気質・快適性）について基礎的な説明ができる。 (2)生活空間の物理的環境に関する問題点を見つけ、改善策を検討することができる。			
授業の概要 住まいの物理的環境（音・熱・光・空気・快適性）に関する基礎知識を講義するとともに、身近な生活空間から物理的環境に関する問題点を見つけてその環境要素を測定する。測定結果をまとめてレポートを作成、発表、議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：人間と光、 第3回：住まいの光環境 第4回：光環境の測定 第5回：人間と音、住まいの音環境 第6回：音環境の測定 第7回：人間と熱 第8回：住まいの熱環境 第9回：熱環境の測定 第10回：人間と空気、住まいの空気環境 第11回：空気環境の測定 第12回：人間と快適性 第13回：住まいの快適性 第14回：快適性の測定 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

私たちの住居学 第2版 (中根芳一編著、オーム社)、

学生に対する評価

平常点：40% (平素の学習状況、作業への取り組み姿勢などを総合して評価する)

測定レポートおよび発表：60%

授業科目名： 保育学 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 増田 仁 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学		
授業のテーマ及び到達目標 子どもに関する社会学・生活史・現代の課題等について検討し、子どもが置かれている社会的文脈を理解する。			
授業の概要 子どもの社会学・生活史・保育実践・家庭環境・現代の課題について考察し、子どもの社会的布置を理解することで、今後どのような支援が必要か議論していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：子どもの社会学（1）社会化 第3回：子どもの社会学（2）ジェンダーと教育 第4回：子どもの社会学（3）国際化 第5回：子どもの生活史（1）戦前 第6回：子どもの生活史（2）戦後（前半） 第7回：子どもの生活史（3）戦後（後半） 第8回：保育実践の検討（1）カリキュラム 第9回：保育実践の検討（2）指導法 第10回：家庭環境と保育（1）1人親家庭の支援 第11回：家庭環境と保育（2）共働き家庭の支援 第12回：子どもをめぐる現代の課題（1）早期教育 第13回：子どもをめぐる現代の課題（2）貧困 第14回：子どもをめぐる現代の課題（3）虐待 第15回：まとめ 定期試験なし			
テキスト 保育原理（広田照幸ほか編、樹村房）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

レポート80%、学修態度20%

授業科目名： 保育学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西雪夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校家庭科の内容に関する専門的知識・理解を深めるとともに、現代の保育をめぐる諸問題の背景を理解し、課題解決の方策を考えることができる。			
授業の概要 授業の前半では、妊娠・出産と幼児の基本的生活習慣の獲得について解説する。授業の後半では現代の保育をめぐる諸問題について受講生が各自でテーマを決め、問題背景やその解決策について探究活動を行い、相互に情報共有をして保育問題への理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：妊娠と出産（1）月経 第3回：妊娠と出産（2）妊娠とは 第4回：妊娠と出産（3）健康な妊娠とは 第5回：幼児期の五つの基本的生活習慣とは 第6回：幼児期の基本的生活習慣の獲得（1）排泄と睡眠の自立 第7回：幼児期の基本的生活習慣の獲得（2）食事の自立 第8回：幼児期の基本的生活習慣の獲得（3）清潔と着脱衣の自立 第9回：現代の保育をめぐる諸問題（1）研究テーマの決定 第10回：現代の保育をめぐる諸問題（2）情報収集方法の計画 第11回：現代の保育をめぐる諸問題（3）探究活動の中間報告1回目 第12回：現代の保育をめぐる諸問題（4）探究活動の中間報告2回目（1回目以外の受講生） 第13回：現代の保育をめぐる諸問題（5）最終報告1回目 第14回：現代の保育をめぐる諸問題（6）最終報告2回目（1回目以外の受講生） 第15回：総括 定期試験は実施しない			
テキスト 子どもと学校（河合隼雄著、岩波書店）			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート80%、学修態度（授業中の発言等）20%

授業科目名： 保育学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：増田 仁 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学		
授業のテーマ及び到達目標 子どもの身体的・心理的発達、社会性の発達を発達段階ごとに理解する。さらに実際の子どもを観察することで理解を深めていくことを目標にする。			
授業の概要 授業の前半では、子どもの身体的・心理的発達、社会性の発達を発達段階ごとに解説する。授業の後半では実際の子どもを観察し、子どもの発達や保育実践について理解を深める。最後に子どもに関する制度について紹介し、子どもを支える仕組みへの関心を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：身体的発達（1）乳児 第3回：身体的発達（2）幼児前半 第4回：身体的発達（3）幼児後半 第5回：心理的発達（1）乳児 第6回：心理的発達（2）幼児前半 第7回：心理的発達（3）幼児後半 第8回：社会性の発達（1）乳児 第9回：社会性の発達（2）幼児前半 第10回：社会性の発達（3）幼児後半 第11回：子どもの観察の事前指導 第12回：子どもの観察実習 第13回：子どもの観察の事後指導 第14回：子どもと制度（1）乳児院 第15回：子どもと制度（2）児童相談所			
テキスト 子どもと学校（河合隼雄著、岩波書店）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 レポート80%、授業への積極的な参加20%			

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 増田 仁／中西 雪夫
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：家庭科を学ぶ意義を理解するとともに、中学校・高等学校家庭科の学習内容と学習指導方法についての基礎的理解を深める。また、家庭科の授業実施に必要な基礎的な技能を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。</p> <p>また、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を行い、基礎的な技能を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：家庭科教育の概要と学習指導要領</p> <p>第3回：戦前の家庭科教育の歴史</p> <p>第4回：戦後の家庭科教育の歴史</p> <p>第5回：これからの家庭科教育</p> <p>第6回：中学校家庭科の授業の展開（1）家族と家庭生活の授業</p> <p>第7回：中学校家庭科の授業の展開（2）保育と高齢者の授業</p> <p>第8回：小学校家庭科の授業の展開（3）食生活領域の授業</p> <p>第9回：小学校家庭科の授業の展開（4）衣生活領域の授業</p> <p>第10回：小学校家庭科の授業の展開（5）住生活領域の授業</p> <p>第11回：小学校家庭科の授業の展開（6）消費と環境の授業</p> <p>第12回：年間指導計画と学習指導案</p> <p>第13回：家庭科の評価</p> <p>第14回：ICT活用と模擬授業（1）</p> <p>第15回：ICT活用と模擬授業（2）</p> <p>定期試験（またはレポート）</p>			
テキスト			

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等

中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

天野正子「『生活者』とはだれか」中央公論新社（1996）

学生に対する評価

定期試験またはレポート（70%）、模擬授業（30%）